接続詞には、文と文、語と語、といった対等なものをつなげる等位接続詞と、従 属節(文をまとめて副詞や名詞のような文の「要素」としての働きをもたせたもの を主節につなげる、従位接続詞がある

等位接続詞には次のようなものがある

付加・列挙 and 二者選択 oi 否定的付加 nor

従位接続詞には次のようなものがある

as, than, like 条件 if, unless (al)though, while, whereas 対立 度合・程度 where, whereve

原因と理由

either A or B

not A but B

間接疑問 whether, if 間接陳述 when(ever), while, as before, until, till

once, when, whereupor

複数の語が組み合わされて使われる複合接続詞の捉え方

both A and B both という代名詞が A and B という同格の 2 つの名 詞で言い換えられている

詞で言い換えられている

either という代名詞が A or B という同格の2つの名

A を否定し、but という「対立」を表す接続詞で、E であることを表している

not only A but (also) B A だけであることを否定し、but という「対立」を表 す接続詞で、B でもあることを表している

as soon as I got my coat off as soon as I entered the room. の最 初の as は soon という、文に情報を追加する時を表 す副詞に対する早さの程度(それくらい早く)を表 し、次の as は比較を受ける接続詞で、合わせて「私 が部屋に入ったのと同じくらい早く→部屋に入ると すぐ」という意味になる

> even は、意外・驚きをもってレベルの高さ・低さる あらわす程度の副詞で、if を強調し、「たとえ〜で あっても」という意味を表す

as は「その通り」という意味の程度を表す副詞で、 と合わさって、「まるで~かのように」という意味を

> The quiz is so difficult that they can't answer it. O se は difficult という形容詞の程度(それくらい難しい) を表す副詞で、that は結果を受ける接続詞で、合わ せて「とても~なので~」という意味になる

接続詞と同様に文と文の関係を示す連結副詞

I felt tired, so I went to bed. の so は、対立しない順 行の関係を表す

John is old. He, however, go swimming every day. σ_{ij} however は対立する逆行の関係を表すが、howeve は but のように 2 つの文を直接繋ぐことはなく、次 の文中(文頭とは限らない)に置く

前置詞に使われる語の多くは、動詞に動作の方向を付け加える副詞としても使われる

前置詞の基本イメージ 「(大きさを持たない) 点」

「囲まれた空間や範囲の中にある」 「何々のそば」(行為者はそばに居る)

「(何かを) 横切る

「対象から離れたものが向かってきて一緒になる」

through 「通り抜ける」 about above 「位置が上方」

agains 「個々の何かを意識しないものの間」

「長手方向の動き」

「(おもに時間や順番という場合の) 前」 「何かの反対側の向こう」

during 「期間中」 「~の中へ 「~のまわり(周囲) 「何かの下」 「~のとおり」 「上方から接触

within

副詞は文や語に情報を付け加えたり、文の外側にある、文が成り立つ前提や文は 対する評価などを示したりする品詞

基本文に情報を追加するもの

語に情報を追加するもの

above, up, down, in, out, upstairs, etc. (原則として動詞を後ろから

very, much, really, quite, too, so, not, rather, fairly, etc. (語を前から always, never, often, rarely, sometimes, etc. (原則として動詞を

前から修飾

文の外側のテキストのレベルから文に情報を追加するもの 評価や態度 happily, clearly, luckily, oddly, wisely, strangely etc. (文頭に置かれ る場合が多い)

mentally, morally, officially, strictly etc. (文頭に置かれる場合が多い

ow(様態·手段)、where(場所)、when(時)、how(程度:how +形容詞·副詞)

Where do you live

時制の一致と話法

時制の一致」は、引用される文の時点が基準になる時制の、日本語との対比から 来た「文法」で、英語は引用される文も話している時点から見た時制となる

He said, "This is my favorite CD now." のように引用符を使って、発言をそのまま 伝える表現を直接話法といい、それに対し、He said (that) that was his favorit D then. のように、話す人が発言を言い換えて伝える表現を間接話法という

間接話法は発言を話す人の立場から言い換えるもので、通常次のような言葉は言 い変えられ、時制は話す人の時点から見た時制になる

間接話法 those \rightarrow there \sim before \sim ago \rightarrow the last \sim \rightarrow

the next day または the following day tomorrow vesterday the day before または the previous day the night before または the previous night last night

分詞構文

Feeling happy, I smiled at her.(うれしかったので彼女に微笑んだ)のような文を 「分詞構文」といい、理由・状況・条件などの「状況補語」を表す 分詞構文は、副詞節の主語と接続詞を分詞だけで表現する eeling happy という分詞の部分の表しているものは、あくまでも「うれしく感 じている」ということで、二つの部分の関係を読む側の常識に委ねる、論理的に は曖昧な文学的表現

受動態の分詞構文

〈being +過去分詞〉 Being eaten with rice, it is really good. being は省略され〉Eaten with rice, it is really good.

前置詞

前置詞は、前置詞+名詞として前置詞句を作り、前置詞の目的語に対する位置や

「面や線に接している」

「ある地点までの途中」で、方向を表す。

「分離・関係」

「上を通過」

「~のまわり(外側)

「対象に向かう力と力をかけたとき対象が押し返してくる力の感覚」

「個々の何かを意識するものの間」

「起点から離れる」 without 「つながりなし」

「節囲内」

well. hard, how, fast, slowly, quickly, now, then, soon 様態など状況補語 recently, etc. (原則として基本文の後)

ever(動詞を前から修飾)

疑問副詞

why(原因と理由)という、様々な疑問を表現するもの

疑問副詞の使われる場合 I don't know where you live

There +動詞文

英語には主語があり、それは会話当事者同士の関心事である「主題」のこと 会話当事者の片方が新情報を会話に持ち込もうとするとき、新情報は一方の当事 者しか知らないことなので主題にはなれず、主語になれない 新情報を会話に持ち込むときは、次のように there +動詞文を使って新情報を認

Dnce upon a time there lived a kind old man.という文のthereという代名詞は、「在 在という主題」を表す「主題としての主語」と解釈してよい

動作主としての主語は a kind old man であると解釈してもよい

here +動詞文は新情報を話題にするときの特別な文なので、*There was the kind old man. のように the を使うような既知の情報は普通 there +動詞文には使えな

比較

比較級や最上級のつくり方

-般的には比較級には er を付け、最上級には est を付けて作るが、つづりが長い ものは語の前に比較級は more を最上級には most を付ける 規則変化するそれらの語とは異なり、不規則変化する語もある

~と同じくらい…」 〈as +原級+ as ~〉I am as tall as my father 「~よりも…」 〈比較級+ than ~〉 John is older than Jack. 「~でいちばん…」 〈the +最上級+ in[of] +~〉Mt Fuji is the highest in

最上級の the は、1つに決まる実体としての山(the highest mountain)を表し ているから付くのであって、最上級の規則だから付けているわけではない したがって Mt. Fuji is highest at this point. や I am happiest when left alone. のよ うに、1つに決まる実体を表していない場合には the は付かない

関係代名詞

関係代名詞とは、This is the book which I bought yesterday.(これは昨日買った 本だ)のように、名詞(この場合は the book)を、文で修飾するための方法

主語 which * who

日的語 which や who(m) whom はやや古風な使い方

先行詞が前置詞の目的語になるとき

かつては This is the knife with which he was killed. のように、前置詞を関係代名 詞の前に置くのが正しいとされたが、現在では、This is the knife which he wa killed with. と、関係節の中に置かれるのが一般的

that という関係代名詞

that は「なめらかに後につなげる」機能を持ち、「名詞」としての機能は弱し My house, which has been for sale for six months, has just been sold. のような 非制限用法の場合は、my house と which の間にカンマがあり文が途切れている ため、which の代わりに that を使うことはできない

同様の感覚で、This is the knife with which he was killed. のような、前置詞が関

係代名詞の前に来る文にも、which の代わりに that を使うことはできない

This is the book which I bought yesterday. のような、関係代名詞が先行詞を数多 くのもののうちから特定するような使い方を制限用法といい、My house, which 使い方を非制限用法という

形容詞

形容詞は「もの」の状態や性質を表現する品詞

2 通りの使い方

This is a red flower. の red のように、名詞の概念そのものを変更する modifier (モ ディファイア:modify 部分的に変更 er するもの)としての使い方は、flower & いう名詞を red flower という別のものに変化させている This flower is red. の red の場合は、名詞そのものを変化させることはなく、単に

関係副詞

評価や態度

田覚動詞の構文

と解釈すると分かりやすい。

動詞に情報を追加

名詞に情報を追加

a very sweet orange

guite a sweet orange

the apple on the table

動詞に動作の方向を付け加える副詞

He put down his bag. He put it down.

動詞の直後または動詞の目的語の後(代名詞の場合)

形容詞(語の定義を変更する modifier としての使い方)

語に「語としての程度」を与える、程度の副詞は語の前に来る

副詞の一種としての predeterminer は、限定詞の付いた名詞の前にくる

名詞を後ろから修飾する前置詞句あるいは形容詞、形容詞の場合は関係代名詞と

次の例文の quite は「語としての程度」を与える程度の副詞の仲間

ne apple red in the light the apple (which is) red in the light

nodifier としての形容詞は、名詞の直前に来る

限定詞は修飾語としての形容詞の前に来る

be 動詞が省略されていると解釈できる

視点

文に対する態度など

説明しているだけ

関係副詞は、This is the town where I was born.(これは僕が生まれた町だ) where のように、先行詞(the town)に情報を付け加えるために使用されるもの 関係副詞は、I was born in the town のように、先行詞を副詞化(in the town)して 関係副詞以下の文に繋いでいる

happily, clearly, luckily, oddly,

wisely, strangely etc.

修飾の原則(前から変更後ろから説明)

This is a red flower.

This flower is red.

red という語が後に続く flower の概念を変更

red という語が前にある This flower を説明

| 目的語の後に不定形や分詞が来る文

saw a frog jump into the old pond. の I saw a frog までが第一の文で、a frog

ump into the old pond が第二の文。第二の文全体が saw の目的語になっている

made him call you back. も I made him までが第一の文で、him call you back a

が第二の文で、第二の文全体が made の目的語になっている

語のレベルで情報を付け加えるもの

personally, officially etc.

名詞

単数か複数か

普通名詞

名詞の認識の仕方 限定詞が付いているか 付いていれば 実体なら可算か不可算か 形の定まっているもの 時間軸上に現れた現象 可算

形の無いものと概念

形の定まっていないもの 1つの形の定まっているもの 1回の時間または現象 複数の形の定まっているもの 複数回の時間または現象

police のよう に複数として扱われる ものや family のようにその時の使う人 が全体で一つと認識しているか、構成 する個々を意識しているかによるもの

とがある 不可算名詞が可算扱いされるときは「種類」を表す 様々な名詞

> 形のあるもの book, chair 時間軸上に現れるひとまとまりの時間または現象

hour, earthquake 物質名詞 形のないもの water, suga 構成する個々のものを意識せず、全体を量として捉 えるもの baggage, jewelry, furniture

集合名詞 複数の人・物などで構成されるもの 抽象名詞 概念だけで実体がないため通常は限定詞が付かない 固有名詞 個を他と識別するための、概念を持たない名詞

限定詞

基本文

①主語+自動詞

I walk

②主語+他動詞+目的語

I break the glass.

③主語+自動詞+前置詞+目的語

I listened to the radio.

I gave him a book.

より意味が通れば付け加える。

のように期間を表すもの

詞)の程度を示すもの

た原因を表すもの

続詞を使っても表せる

的」は未実現の事柄が対象になる

る際の、手段や使用する道具を表すもの

「誰かと一緒」という状況をつたえるもの

④主語+他動詞+間接目的語+直接目的語

It takes me an hour to get home.

名詞の状態・性質を表す語は①、④の後にそれに

主語、動詞、目的語は原則として省略できない必

「時」とは、Betty saw the movie yesterday. や、I get up at 6 in the morning. など

のように、動作の起こる時刻を表したり、John stayed in Japan for three month.

「場所」とは、I'm home、(私は家に居る→日本語の「ただいま」にあたる決まり文句

「様態」とは、Mary danced gracefully. の gracefully ように、動作の様子を示した

「量と強め」とは、Thank you very much. の much や I walked 30 kilometers. の

30 kilometers のように、文全体 (別の見方をすれば文をコントロールしている動

その他にも、I go running once a day. のように頻度を表すものもこれに含まれる

「手段と道具」とは、Jack went to Tokyo by train. や、I wrote the letter on my

「同伴」とは、Betty went to Tokyo with her father. の with her father のように、

「原因」とは、Mr. Ford died of cancer. の of cancer のように、動作や状況の起こっ

原因は、前置詞句だけではなく、He said that because he was angry. のように接

「目的」は、She bought the book in order to study Spanish. のような文で、「原因

」と似ているところがあるが、「原因」が過去の事実を示しているのに対し、「目

computer. などの、by train や on my computer で示されるもので、動作が行われ

もので、Mary danced with grace. と前置詞句を使って表現することもできる

や、I live in Tokyo. のような、存在や動作の場所を示すもの

須要素であるとともに、順番も変更できない。

限定詞は、概念に時間空間的な範囲を与えて「実体」を表す したがって限定詞の付いていない名詞は「概念」を表している 実体を持たない抽象名詞に限定詞が付くときは概念の中を区切る「種類」を表す

同種のものが複数存在する「普通名詞」の実体の1つを表す 物質名詞の実体や地球のように1つしかないもののためそれと定 まってしまう実体、普通名詞でも文脈等によりそれと定まってし 普通名詞や物質名詞の区別など以前の、単に実体であることを表

a の強調形で、「1つでも」、「1つも」を表す限定詞 my や your や someone's のように「誰の」を表す限定詞

動詞・助動詞

動作の移る動詞、移らない動詞

移らない性質の動詞→動作の対象を直 intransitive verb 接取らない 保安官を狙って弾を撃った。(当たっ

たかどうかは不明 移る性質の動詞→動作の対象を直接取 他動詞 transitive verb り、原則的には動作が対象(目的語) に移る動詞

保安官を撃った(弾が当たった) I shot the sheriff.

不定形と活用形

動作の概念を表す 活用形 (定形) 個々の動作を表す

時間と空間

不定形 (動作の概念) → 活用形(「場」を持つ個々の動作

実感が薄い表現となる

状況補語

を表現する文を作る

Wine is made from grapes.

Helen's told me about you

The houses are made of red brick.

表すために、前置詞 by を使って示される

He spoke on the new computer software.

「衣服」には、in という前置詞が使われる

「反対」には、against という前置詞が使われる

I bought the stock at 10,000 dollars.

I bought the shoes for 20 pounds.

The lady was dressed in fur.

I did it against my will.

The patient is in danger.

He is as tall as his father.

Work is less pleasant than play.

「材料」を表す前置詞は、from、of、in などがある

「matter」は、何かに関して、というテーマを表す

「価格」を表す状況補語には、at と for という前置詞が使われる

「状況」は、「どういう状況にあるか」ということを示すもの

「比較」には、as \sim as を使ったものと than を使ったものとがある

to- 不定詞の to の感覚は、前置詞の to と同じ「到達」の感覚を表し、活用形の動 詞の「場」から不定形の動詞の「場」へ到達することを表している

| want to drink water, want という活用された動詞のつくる「場」から drink と いう不定形の動詞が実際の動作になるときの「場」へ到達することを表す

されるため to が付かない to-不定詞の表す「~すること」という表現は、動作の概念を表すため、どこか現

Do you like English? Do という助動詞のつくる「場」に like という不定形が包含

分詞と動名詞

動詞の動作の局面を表したものを分詞といい、動作の開始から終了までのことを 表すものを動名詞という

動作中の状態を表す 過去分詞 動作後の状態を表す

動名詞 動作の開始から終了までのことを表し、開始から終了までという時 間の要素を持っているので、活き活きとした表現になる

動詞の動作が目的語に移る、「他動詞」動作文(能動態)を、動作を受けた目的語 を主語にして状態文として表現したものを受動態という

The glass was broken by John. 受動態

英語が動詞の活用として表現できる時制は、現在と過去の2つだけ

動詞の有標形(過去形)を使って表現する 動詞の無標形(現在形)を使って表現する will のような法助動詞で動詞の不定形を包み込んで表現 I will go be going to のあとに動詞の不定形を続けて表現 Iam going to go 現在進行形を使って表現 I am leaving Japan tomorrow 現在形を使って表現 Jleave Japan tomorrow

過去形はより根本的には動詞の有標形であるので、いきなり「過去」と捉えるの ではなく、まず「有標」と捉え、「有標」の中から過去が浮かび上がるようになる ことが大切

動作動詞の現在形は実際の動作を表さず、概念としての動作を表す 現在形は、時の流れとは無関係な真実や現在の習慣・状態、あるいは劇の台本の ト書きのようにあたかも目の前で行われている光景などを表す

進行形と完了形

be 動詞を使った存在文に、動詞の動作中の状態を表す現在分詞を 付け加え、動作中の状態を表したもの

have(持っている)という助動詞を使い、動作の終了した状態を 表す過去分詞を have という助動詞が保有するというところからそ の時までに過去分詞の動作が行われたことを表す

仮定法

仮定法の「法」とは、仮定のことを表す「方法」のことではない 「法」とは、英語で mood (ムード、気分) と言い、文の表すことに対する話者の 心理的なカテゴリーを表す文法用語

(a) If I were a bird, I would fly to you.(もし僕(私)が鳥だったらあなたのところ に飛んで行くのに)

(b) If I had studied hard, I would have passed the examination. (もし僕(私)が-生懸命勉強していれば試験に合格していたのに)

例文の斜体で示したところが仮定法で、were, would, had という有標形で表現さ いずれも事実とは異なる仮定を述べたり、事実とは異なる仮定から導かれた結論

を述べる心理的抵抗感が有標形を取らせている 一般的な表現方法である直接法は、事実を述べる時に使われるのに対し、仮定法 の有標形は「実際はそうではない(なりそうもない)のだけれど...」という意識 を文に乗せる形で、「過去」など時間軸上の位置を表しているわけではない

助動詞

英語の勉強をするときはこのシートを机の上に広げて、このシートの上で勉強して下さい。

文法分析で英文を読むときは、1単語ごとに、その品詞の使い方をこのシートで確認します。

1語ごとに確認することにより、あなたの頭が英語がわかる頭に変化していきます。

分からない文法があるときは、このシートですぐに確認できます。

助動詞は、活用して「場」を作り、他の動詞を包み込むカプセルを作る Do you like English? は、Do you / like English? ということ

will や may や must のような助動詞は、人の頭の中での判断を表す可能性などを 表す法助動詞で、話者という一人称の判断を表すので、三人称単数に付いても法

法助動詞の中核になる感覚は次の通り can (潜在性), will (推測・意志・傾向), shall (それ以外に道はない), must (高 い圧力 (主観的)), have to (高い圧力 (客観的)), may (開かれた道), should (mus の弱まったもの), ought to(should とほぼ同じ), used to(現在と対比しての過

英語学習シートの使い方

このシートに書かれている文法を暗記する必要はありません。

基本文に状態・性質を表す語を付け加えた、基本 文型に自由に追加できる部分を状況補語という 状況補語は Mary danced gracefully. の gracefully のように副詞で表したり、I live in Tokyo. の in Tokyo のように前置詞句あるいは接続詞に導かれ た従属節によって表され、時、場所、様態、量と 強め、手段と道具、同伴、原因・理由、目的、材料 行為者、「matter」、価格、衣服、反対、状況、比 較など基本文型で表すことのできること以外の事

柄を表す 英語では、骨格となる基本文型と必要に応じて文 に自由に追加できる状況補語とで、あらゆる事柄

「行為者」は、The glass was broken by John, のように、受身文における行為者を

疑問文 Yes/No で答える疑問文

疑問文は、主語、動詞、目的語という「基本的な」英語の語順を壊した一種の引 調文として作られる

. be 動詞の疑問文 be 動詞を主語の前に置き、補語を主語の後に置く

助動詞を主語の前に置き、動詞の不定形を使った述

語部分を主語の後に置く Do you like English?

疑問詞のある疑問文(具体的返答を求められている疑問文 疑問文の中の疑問詞は、必ず平叙文の主語や目的語といった文の要素にあたる

仮の疑問文 You have what? (You have a book.)

经間文 What do you have?(何を持っているのですか?) 仮の疑問文 You like which, large cars or small cars? (You like small cars.) 疑問文 Which do you like, large cars or small cars? (大きい車と小さい車の

どちらが好きですか?) 仮の疑問文 You like who(m)? (You like John.)

疑問文 Who(m) do you like? (誰を好きなのですか?) 仮の疑問文 You started the job when? (You started the job vesterday

仮の疑問文 You live where? (You live in Tokyo.) Where do you live? (どこに住んでいるのですか?) 疑問文

"wanko-soba"..) Why did you go to Morioka?(なぜ盛岡に行ったのですか?) 疑問文 (f) How (状況補語としての手段)

仮の疑問文 You went to Morioka why? (You went to Morioka to eat

When did you start the job? (いつ仕事を始めたのですか?)

仮の疑問文 You got that how? (You got that from the Internet.) 疑問文 How did you get that?(どうやってそれを手に入れたのですか?) (g) How(程度の副詞) 仮の疑問文 You have how many cars? (You have five cars.)

疑問文 How many cars do you have?(何台車を持っているのですか?) 主語を訊ねる疑問文

助動詞 do を使う強調文にならない Who said that?

疑問文

You are a good singer, aren't you?(歌が上手です、違いますか?→歌が上手です よね?) や You aren't a good singer, are you? (歌が上手ではありません、上手で すか?→歌が上手ではないですよね)のように、確認したり同意を求めたりする

will you? を付ける

答えかた

命令文の付加疑問文

shall we を付ける Let's go, shall we? Yes, let's. または No, let's not.

Help me, will you?

否定文

ot を使う否定文は次の2つ

. be 動詞の否定文 be 動詞の後に not を付ける I am not a studen 主語の後に助動詞と not を置き、動詞の不定形を使っ

た述語部分を not の後に置く

I don't like English. 確認や驚きなどを表すため使われる

I don't like all of them. のように all、every、always のような全体 を表す語を含む否定文は、一部を否定することを表す部分否定に

Get out! のように主語のない文で、いきなり動詞の不定形から始まる 命令文の要求する動作はまだ動作としては現実に起こっていないため、現在形や

過去形のように活用された形はとれず、動詞は活用されていない不定形となる

そうすれば

そうしないと

否定の命令文は、Don't be late. のように「Don't +動詞の不定形」で表現される

lurry up, or you will miss the train

感嘆文

命令文+ and/or の形

tudy hard, and you will pass the examination

英語の基本的な語順を壊した強調表現で、自分の感想を豊かに表す ow +形容詞 [副詞] +主語+動詞 How beautiful she is. 「どれくらいきれいなのだろう彼女は」というような感覚 What(+ a[an])+形容詞+名詞+主語+動詞 What a beautiful flower this is. 日本語でも強い驚きを表す時「何?」と叫ぶことがあるのと同じ感覚

英語学習シー

ダウンロードURL

http://www.kyoiku.co.jp/gakusyusheet.pdf

Copyright INOUE Kenji 2017

2017年9月30日

初版発行